様式第６号の７

学番　72	新潟県立高田商業高等学校

令和８年度　学校自己評価表（計画）

学校運営実施計画		
学校運営方針	１　生徒が第一　　生徒の自己己実現、満足度向上を図り、安心・安全な学校生活を目指す。 ２　教職員が大切　　生徒の為に、情熱を持って健康で働けるよう、情報共有と相互協力に努める。	
三つの方針（スクール・ポリシー）		
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	～卒業までにこのような資質・能力を持つ生徒を育成します～ ①社会の発展に貢献しようとする大きな志を持って、主体的に地域の生活を創造できる能力を持つ生徒を育成します。 ②ビジネスシーンにおいて様々な他者と関わり、チームワークを重んじながら課題を発見し、解決への道筋を立てる力を備えた生徒を育成します。 ③自己を管理する力を持ち、市民としての社会的責任を自覚する勤勉な態度の生徒を育成します。 ④世界には多様な価値観があることを理解し、自分の考えを適切な言葉で表現し、コミュニケーションを図ることができる生徒を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	～上越地域唯一の商業を専門とした高等学校として、生徒の多様な進路に対応した教育活動を行います～ ①１年生では基礎学力の充実に努めるとともに、積極的に将来の自分について探求する姿勢を育成します。 ②２年生では商業科目を系統的に学習することをとおして、高い専門性を追求します。 ③３年生では学校の教育活動全体をとおして、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得を目指します。 ④各学年における探究的な学習活動や体験学習、教科横断的な学習により、深い学びを実践していきます。	
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	～このような生徒を求めています～ ①将来は自分でお店を持つなど、起業に関心がある生徒 ②事務や販売などの仕事につくことを目指しており、そのための知識を学びたい生徒 ③生まれ育った地域のために自分に何ができるか考えている生徒 ④新しいことに挑戦してみたいという積極性があり、進路希望実現のために努力を惜しまない生徒 ⑤健康的で規則的な生活習慣をもち、ルールやマナーを守れる生徒	
昨年度の成果と課題	重点目標	具体的目標
・昨年度、学校運営方針に基づいた４つの重点目標､具体的目標の達成に向けた取り組みにより、生徒の多様な進路の実現を達成することができた。 ・各学年で取り組むキャリアデザインにより、生徒の勤労観・職業観が醸成されるとともに、コミュニケーション能力を高めることができた。就職では企業訪問を実施することで地元企業からの求人が増加した。 ・いじめ等防止委員会、特別支援委員会を定期的に開催し、生徒の状況について、教職員間で情報共有を図ることができた。また、必要に応じて外部機関とも連携しながら、生徒の悩みや不安を取り除く活動を充実させた。しかし、トラブルの多くがＳＮＳに起因しており、ＳＮＳの活用についてはより一層注意して指導にあたる必要がある。（いじめ認知件数：令和６年度２２件、令和５年度３５件） ・ＨＰページの充実、Ｎｏｔｅの活用や一斉メール配信システムを導入し情報発信することにより、「開かれた学校」の実現に取り組んだ。 ・本校の特色の一つである模擬株式会社「Ｒｉｋｋａ」の活動をさらに発展させ、地域連携を深め探究活動を進化させていく必要がある。	①基本的生活習慣の確立と社会人基礎力の習得を踏まえた学力向上。	・質と量の調和の取れた学習指導によって、「知性」としての確かな学力の育成を図る。 ・「基礎・基本」を身につけさせる学習と、「知識・技能を活用する力」や「考える力」を高める学習をバランス良く展開する。 ・観点別評価を取り入れることで、定期考査の成績のみならず、生徒の学習に対する取組み全般を総合的に評価する。 ・各教科で主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、アクティブ・ラーニングやＩＣＴの活用を積極的に取り入れ、課題を解決する力を育む。 ・外部機関（上越教育大学等）との連携を図ることで、より一層の授業改善に取り組む。 ・学年進行に応じた適切な課題を課すことで、家庭学習習慣の定着、及び家庭学習時間の増加を図る。 ・各教科・科目のシラバスを作成し、適切で計画的な教科指導を行う。 ・大学等の進学希望を実現させるために、各種推薦入試の指導、及び大学入学共通テスト、国公立大学受験対策の指導の充実を図る。 ・専門高校として、簿記をはじめとする各種の資格取得を支援する。
	②自尊感情の醸成、自己肯定感向上と学校行事や特別活動等の推進。	・人とのかかわりを重視することにより、充実した学校行事、生徒会活動、ボランティア活動などへの積極的な取り組みを促し、その中で基本的な生活習慣や豊かな人間性を培う。 ・基本的な生活習慣を身につけることにとどまらず、商業高校生としてビジネスマナーを身につけ、その学びから将来の進路実現に役立つものとする。 ・生徒会役員などを中心として、生徒の自発的な活動により運営される体育的行事や文化的行事など校内の仲間とのかかわりを大切にした学校行事を実現する。 ・部活動の加入率向上、その他、生徒会活動や商業クラブの活動で、放課後も活気あふれる学校にする。 ・徳性、品性を涵養し、生徒のための講話、行事なども実施し、高い目的意識を持った生徒を育成する。 ・気になる生徒の様子について、いじめ等防止委員会、特別支援教育委員会を中心に、担任、学年、分掌、職員会議で情報共有する。 ・必要に応じて外部機関との連携を図り、各生徒に適切な支援を行う。 ・生徒に対しては、いじめの認識を深める働きかけをするとともに、教職員においては、校内研修を行い、いじめの未然予防、早期対応を行う。
	③キャリア教育・進路指導の充実と探究学習を含む学習指導の推進。	・進路選択における基礎的能力、生徒の勤労観・職業観を養成するため、各学年で取り組むキャリアデザインの活動、企業見学、学校見学（１学年）、インターンシップ等の体験的活動を積極的に実施し、自己理解を深化させる。 ・就職希望者には、職場訪問などを通して正しい職業観を確立させるとともに、職員も企業訪問を実施するなかで新規企業からの求人確保に努める。 ・進学希望者には、多様な入試方法（一般選抜、指定校推薦、公募推薦、総合型選抜等）で受験する生徒が多いため、教科と学年が連携した生徒への働きかけを強化していく。 ・大学入試改革に対応できるよう、全校体制での進路指導を強化していく。（１年生からポートフォリオの導入など） ・さまざま体験・経験を個人の中で振り返るとととともに、全校生徒間でも共有することで、進路実現を図っていく。
	④創立110周年記念事業を中心とした伝統継承と未来に向けたイノベーション（進化）。	・ホームページやＮｏｔｅ、一斉メール配信システムを活用し、安全・安心な学校運営に関する情報を提供し、家庭・地域との連携を図る。 ・進路に関する情報等を、生徒だけでなく保護者にも発信し、学校と家庭が連絡を密に取り、連携することによって、生徒の進路希望を実現する。 ・学校での取り組み（学校運営方針、学習活動、学校行事、部活動、進路実績、チャレンジショップ「Ｒｉｋｋａ」、ＰＴＡ活動、取得資格など）を随時発信し、学校・家庭・地域で連携した学校づくりを目指す。 ・学校ＰＲの推進、地域イベントとの連携、交流を図る。（地域商店街のイベントや市関連のイベントに参加）
	⑤「業務量管理・健康確保措置実施計画」の推進。「これまでは」から「これからは」	・教員間で積極的にコミュニケーションを取ることにより、課題を可視化する。 ・教員が自己申告シート等に各自の目標を立て、より積極的に取り組む。 ・各分掌が組織として効率的な活動となるよう検討し、改善に取り組む。